

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100057	事業の開始年月日	平成18年8月1日
		指定年月日	平成30年8月1日
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート川崎		
所在地	(〒212 -0053) 川崎市幸区下平間357-2		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年11月23日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度も新型コロナウイルスの影響もあり、外出や地域交流・ボランティア団体の受け入れ等ができず、室内での活動が中心となりました。昨年同様に館内の装飾や月一での行事に力を入れ、少しでもお客様に楽しんでいただけるよう取り組みました。

館内装飾は各階で四季の花や紅葉、各月の行事に合わせた装飾を職員で考えながら行っています。特に2階の玄関前や共有スペースの飾りは職員の方が、四季を感じていただけるようにと盛大に飾りつけています。

月一行事の納涼祭では、体を動かしていただけるよう輪投げ等のゲームを企画したり、敬老会では職員が、秋の写真を使った神経衰弱をつくり楽しむなどの工夫をしています。また面会が難しい中ですので、ホームの様子をブログに掲載したり、運営推進会議の資料に写真を添えて、活動報告を行っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年1月27日	評価機関 評価決定日	令和4年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇事業所理念のもと利用者、家族との信頼関係の構築
・職員は事業所理念「グループの力を結集して『ありがとう』の気持ちを忘れずに、ルールを守り出会いを大切にエネルギーに活動し、和やかなケアをする」を目指して、利用者毎の個別支援の必要性和利用者に対応したケアを理解し支援にあたっている。また、職員には10年以上の在籍者が多く、利用者、家族との間で信頼関係がある。

◇利用者本位の支援

・職員は、利用者の意向や希望を大切に支援にあたり、2名の利用者は、入居前のかかりつけ医に受診し安心感を得ている。

【事業所が工夫している点】

◇利用者家族へブログの配信

・コロナ禍で面会ができないことで家族へ、ブログを配信をして利用者の近況を伝えている。更新は月4回以上を目標に写真を掲載して、日常の利用者の様子を伝えている。

◇事業所内の季節感の演出とお楽しみごとの工夫

・職員は、利用者が楽しめるよう行事に合わせ、季節感を演出する飾り物を考え、利用者と一緒に作成し飾りつけている。また、身体を動かして楽しめる機会を多く持つことに努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ガーデンコート川崎
ユニット名	ユニット1 (2階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、社是を掲示していません。お客様、家族、地域に貢献することを念頭に、運営していきたいと考えています。	・法人の理念・事業所の介護理念を入口に掲示し共有している。 ・事業所理念「グループの力を結集して『ありがとう』の気持ちを忘れずに、ルールを守り出会いを大切にエネルギーギッシュに活動し、和やかなケアをする」を、目指し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にてご家族、協力医療機関、地域包括等へ活動状況の報告を行っています。（現在は書面での意見徴収） コロナ禍以前は地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加していました。	・コロナ禍で地域との交流はできていない。 ・コロナ禍以前は、数名のボランティアを受け入れていた。現在はコロナ禍の為、ボランティアの受け入れは行っていない。	・コロナ禍が落ち着いた段階では、「地域交流室」の活用を考え、地域住民との交流の再開が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	旧小規模多機能室に、「認知症カフェ」の設立を目指しています。現在は、新型コロナウイルスの影響により、活動休止中です。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、事業所の報告を行っています。また助言やご指導を頂きサービス向上に活かしています。	・コロナ禍の為、対面開催は行っていない。書面で報告を行い、意見や助言を聴取している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事は確認を行うよう努めております。 コロナ禍以前では定期的に運営推進会議にお招きし、ご出席して頂いています。適宜情報交換を行っていました。	・コロナ禍前は、グループホーム連絡会や地域ケア会議に参加して、情報交換をしていた。 ・市の集団指導研修や地域ケア会議のアンケートを提出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に2回職員の個別研修、採用時の研修、2018年度より常勤会議にて身体的拘束排除の会議を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	・「身体拘束廃止委員会」を、3か月毎に開催し、全職員が議事録を閲覧し周知徹底している。 ・職員は「身体拘束マニュアル」等で、年2回の研修を実施し、フロアミーティングを中心にケアのあり方を確認している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を、職員の個別研修で行っています。虐待につながらないよう、職員のストレスケアにも留意した運営を行っています。	・管理者は、身体拘束の研修中に、虐待の事例を挙げて説明し、虐待に繋がらないよう指導している。 ・事業所の取り組みとして、虐待が起きそうな環境の排除に努め、職員はお互いに注意し合い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状は研修未実施ですが、今後理解に向け研修などを通じ研鑽していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の契約及び解約時には書面を用いて説明を行っています。また介護保険法の改正時期前、加算取得時にも既存のお客様への説明をし、同意を頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は実施され、結果を掲載しております。 ご家族様よりご要望があった際は、職員での共有または早期改善をし、運営に反映しています。	・コロナ禍で面会ができないため、家族アンケートを実施し、内容について意見を聞いて、運営に反映している。 ・家族からの意見や要望には、管理者が対応しており、契約時には、苦情相談を外部に表せる場所を説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	拠点会議、ユニット会議等の会議や、個別の定期面談を実施し、意見や要望を聞く機会を設けています。また日常的な場面でも相談しやすい場を作るよう心掛けております。	・管理者は、職員と年2回の個別面談やユニット会議で、意見や要望を聞いている。 ・職員の意見で事業所内の備品を新しくしたり、ドアの開閉の修繕など、利用者対応に必要な意見を支援に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期面談実施時、労働条件や職場環境についての把握を行っています。また職員個々の働き方についても理解し、都度不明点があれば本社と確認し本人と話し合い、対応しています。	・就業規則が整備され、職員はいつでも閲覧できる環境にある。 ・職員の休憩室を確保し、健康診断を年1回、夜勤職は年2回実施している。 ・個人面談時に資格取得への要望を聞き、達成に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員育成プログラム、複数の拠点と合同の研修など、法人全体で取り組んでいます。	・申し送りノートに「外部研修のお知らせ」を入れ、職員が積極的に参加できるようにしている。 ・OJTの取り組みを現場のリーダーや常勤職員が、力量に合わせて指導教育している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在はコロナ禍の為、あまり参加できておりませんが、市の事業所連絡会などに参加してケアマネージャー、同業者の方と情報交換や交流を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントを大切にしています。本人、家族の話聞き、小まめに連絡を取り合うことで安心して利用していただくように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お客様、ご家族の話を聞く時間を多く取り、ニーズを聞きだすように心がけています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居いただく前に、ご本人様とご家族様のご要望を聞き出し、双方のニーズに適応できる環境設定に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の個々のレベルに合わせた家事を、職員と共に行っています。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状態を定期的にご報告し、常時協力し合える環境作りを築いています。			
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会の機会を作っていただいています。新型コロナウイルスの影響もあり、現在は面会に制限を設けさせていただいています。	・コロナ禍で現在は面会が困難な状況にあり、ブログで家族との関係継続に努め、更に電話や手紙の取次も行っている。 ・コロナ禍前は、家族が付き添い、馴染みの美容院や外食に出かける利用者もいた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で行える作業（洗濯物量や食器拭き等）は、職員見守りのもと、実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までそういったケースはありませんが、相談があれば対応していきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様と細目にコミュニケーションをとりながら、ご本人様のニーズに応えられるように努力しています。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は食後、利用者と雑談の時間を作り、思いや意向を把握している。ユニット会議や申送りで情報を共有し支援に反映している。 把握が困難な場合は、コミュニケーションを取りながら、表情や目の動きで意向の把握に努めている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各お客様の生活歴や生活環境を把握し、可能な限り近づけられるよう努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の小さな変化にも注視するように、記録や申し送り等で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、主治医又は看護師、ご家族等とカンファレンスを実施し、介護計画に活かしています。	・介護計画作成にあたり、家族の意見は電話、書面、メール等で尋ね、医療関係者の意見は往診時に話し合い、計画に反映している。 ・介護計画書の更新は、基本6か月で、支援に変更や必要なケアが生じた場合は、都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場職員には、様子や変化の記録を個々に取ってもらっています。また、申し送りで情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様、ご家族と日々接する中でニーズをつかみ、サービスの提案ができるようにつとめています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年初め頃に、当施設の旧小規模多機能室を利用した、認知症カフェの設立に向け活動していましたが、現在はコロナウィルスの影響で、活動を休止しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と提携し、さまざまなことを相談できる関係であり、看護師とは24時間連絡がとれる体制にあります。	・協力医が月2回往診している。利用者の希望で2名が、これまでのかかりつけ医で、受診している。 ・皮膚科などを受診する利用者を、職員が車で送迎している。 ・手足の拘縮が進んでいる利用者はマッサージを週2、3回受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様を医療的な面から見てもらっています。介護職員の疑問、相談できる関係を築けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、担当医と密に連絡を取り、退院に際してのムンテラでは、その後の支援に反映させています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医または看護師、ご家族と密に連絡を取り、悔いなく最期を迎えて頂けるよう取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時に重度化や終末期ケアについての指針を説明している。 ・重度化した場合、家族の意向を聞き、医師と家族で話し合い、確認書を作成している。 ・半年前に一人、看取りを行った実績がある。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時についての個別研修を実施し、実践力を身に付けています。また、各フロアに事故発生時のフローチャートを掲載しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施と、館内にハザードマップを掲載し、迅速な対応が出来るように準備をしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含む避難訓練を年2回行っている。水害を想定した垂直避難の訓練も実施している。災害時には、隣に住むオーナーが駆けつけることになっている。 ・飲料水や食料を5日分備蓄し、リストを作って、年2回更新している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員へプライバシー保護、職業倫理、接遇等研修を実施し、日頃から不適切なケアが無いよう啓蒙しています。	・職員は、利用者に人格を尊重した声掛けを心がけ、羞恥心に配慮した対応をしている。 ・職員にはオンラインでプライバシー保護、職業倫理、接遇等の研修を年に数回行い、レポートを提出して資質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の希望を拝聴し、現実に沿った提案をして、本人に選んでいただけるように促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースに合わせた支援をするよう指導しています。また、個々の体調管理や体調の変化に応じたケアも行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容介助や着脱介助時は、鏡の準備やいくつかの衣服を用意しておき、ご本人が好む格好が出来るようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各お客様に合わせた食事形態での提供を行っています。また、配膳や盛り付け等はお客様と共同で実施しています。	・食材は業者に依頼しているが、利用者の好みに合わせ、おかずの量を調整している。お楽しみメニューのお鍋が好評だった。 ・利用者の好みを尋ね、餃子などの一品を時々提供している。 ・利用者の希望のおやつ作りを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、一定量接種出来るよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助で残物がないようにケアしています。また口腔衛生加算を取得し、歯科衛生士と情報交換、指導、助言を頂き継続的な支援を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りはトイレで排泄していただくケアを行っています。状況によっては居室内にポータブルトイレを設置して対応しています。	・夜間はおむつでも日中はリハビリパンツにして、職員が排せつ記録をつけ、パターンを把握してタイミングを見てトイレに誘導している。自立者に対しては少し離れて見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分を適切に摂取し、運動により腸を動かすことを基本としています。解消されない場合は処方された薬の服薬によって支援をします。また自然排便を促すよう牛乳やバナナの提供を行っております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴支援を行い、皮膚状態を良好に保つようにしています。また、理美容にてカットをされたお客様はカット後、入浴をして頂いています。	・入浴は週2回を基本としている。 ・お湯はかけ流し、または、足湯とシャワー浴にしている。 ・利用者は職員と歌を歌ったり、会話したりしながら、入浴を楽しんでいる。「実はここが痛い」などの打ち明け話をすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペース、睡眠サイクルを把握して快適に眠っていただくように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方の変更時には特に、目的、作用について職員に伝え、変化あれば報告を頂いています。また往診時は薬剤師も同行しており、相談体制が確立されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴や散歩は毎日実施できるよう心掛けています。また、月1回行事を実施し、両ユニットの交流を図る等の取り組みもしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADL維持のためにも、戸外への外出は意識していますが、現在、新型コロナウイルスの影響により、戸外への外出が厳しい状況となっています。ホーム周辺の散歩や、ベランダ等での外気浴を中心に実施しています。	<ul style="list-style-type: none"> ホーム周辺の散歩やベランダで日光浴、外気浴を支援をしている。 コロナ禍前、職員は近くのスーパーに買い物に行く利用者をサポートしたり、初詣を希望の利用者を、事業所の車で送迎を支援している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は事務所にて行っております。コロナ禍以前では買い物を希望された場合は、職員付き添いのもと、近隣のスーパーへ買い物に行っていました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があった場合は、ご希望通り対応しています。手紙については代筆をする場合もあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備をこころがけ、フロアの装飾には季節ごとのテーマをもって、お客様と作成した作品等を飾っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・室温26度、湿度は40%以上を目安にし、職員が調整している。 ・コロナ対策として、よく触れる箇所を毎日2回、アルコールで、床は次亜塩素酸水で消毒している。 ・鬼のお面など季節を感じる作品を利用者と一緒に作成し、リビングルームに飾っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアに複数のソファを配置して、お客様の気分に沿って過ごしていただくようになっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご自宅で使用されていた物をそのまま使用していただくなどして、寛ぎやすい空間作りをしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室には、照明、エアコン、介護ベッドを備え付けている。 ・家族の了解のもと、センサーマットまたは赤外線センサーを設置し、転倒防止に役立っている。 ・居室の掃除は週2回職員が行っているが、手伝う利用者もいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を基本として、建物の設備はお客様が使用しやすいところに位置しています。		

事業所名	グループホーム ガーデンコート川崎
ユニット名	ユニット2 (3階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、社是を掲示していません。お客様、家族、地域に貢献することを念頭に、運営していきたいと考えています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にてご家族、協力医療機関、地域包括等へ活動状況の報告を行っています。（現在は書面での意見徴収） コロナ禍以前は地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加していました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	旧小規模多機能室に、「認知症カフェ」の設立を目指しています。現在は、新型コロナウイルスの影響により、活動休止中です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、事業所の報告を行っています。また助言やご指導を頂きサービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事は確認を行うよう努めております。 コロナ禍以前では定期的に運営推進会議にお招きし、ご出席して頂いています。適宜情報交換を行っていました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に2回職員の個別研修、採用時の研修、2018年度より常勤会議にて身体的拘束排除の会議を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を、職員の個別研修で行っています。虐待につながらないよう、職員のストレスケアにも留意した運営を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状は研修未実施ですが、今後理解に向け研修などを通じ研鑽していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の契約及び解約時には書面を用いて説明を行っています。また介護保険法の改正時期前、加算取得時にも既存のお客様への説明をし、同意を頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は実施され、結果を掲載しております。 ご家族様よりご要望があった際は、職員での共有または早期改善をし、運営に反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	拠点会議、ユニット会議等の会議や、個別の定期面談を実施し、意見や要望を聞く機会を設けています。また日常的な場面でも相談しやすい場を作るよう心掛けております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期面談実施時、労働条件や職場環境についての把握を行っています。また職員個々の働き方についても理解し、都度不明点があれば本社と確認し本人と話し合い対応を行っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員育成プログラム、複数の拠点と合同の研修など、法人全体で取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在はコロナ禍の為、あまり参加できておりませんが、市の事業所連絡会などに参加してケアマネージャー、同業者の方と情報交換や交流を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントを大切にしています。本人、家族の話を聞き、小まめに連絡を取り合うことで安心して利用していただくように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お客様、ご家族の話を聞く時間を多く取り、ニーズを聞きだすように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居いただく前に、ご本人様とご家族様のご要望を聞き出し、双方のニーズに適応できる環境設定に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の個々のレベルに合わせた家事を、職員と共に行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状態を定期的にご報告し、常時協力し合える環境作りを築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の機会を作っていただいています。新型コロナウイルスの影響もあり、現在は面会に制限を設けさせていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で行える作業（洗濯物畳や食器拭き等）は、職員見守りのもと、実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までそういったケースはありませんが、相談があれば対応していきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様と細目にコミュニケーションをとりながら、ご本人様のニーズに応えられるように努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各お客様の生活歴や生活環境を把握し、可能な限り近づけられるよう努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の小さな変化にも注視するように、記録や申し送り等で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、主治医又は看護師、ご家族等とカンファレンスを実施し、介護計画に活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場職員には、様子や変化の記録を個々に取ってもらっています。また、申し送りで情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様、ご家族と日々接する中でニーズをつかみ、サービスの提案ができるようにつとめています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年初め頃に、当施設の旧小規模多機能室を利用した、認知症カフェの設立に向け活動していましたが、現在はコロナウィルスの影響で、活動を休止しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と提携し、さまざまなことを相談できる関係であり、看護師とは24時間連絡がとれる体制にあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様を医療的な面から見てもらっています。介護職員の疑問、相談できる関係を築けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、担当医と密に連絡を取り、退院に際してのムンテラでは、その後の支援に反映させています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医または看護師、ご家族と密に連絡を取り、悔いなく最期を迎えて頂けるよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時についての個別研修を実施し、実践力を身に付けています。また、各フロアに事故発生時のフローチャートを掲載しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施と、館内にハザードマップを掲載し、迅速な対応が出来るように準備をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員へプライバシー保護、職業倫理、接遇等研修を実施し、日頃から不適切なケアが無いよう啓蒙しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の希望を拝聴し、現実に沿った提案をして、本人に選んでいただけるように促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースに合わせた支援をするよう指導しています。また、個々の体調管理や体調の変化に応じたケアも行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容介助や着脱介助時は、鏡の準備やいくつかの衣服を用意しておき、ご本人が好む格好が出来るようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各お客様に合わせた食事形態での提供を行っています。また、配膳や盛り付け等はお客様と共同で実施しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、一定量接種出来るよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助で残物がないようにケアしています。また口腔衛生加算を取得し、歯科衛生士と情報交換、指導、助言を頂き継続的な支援を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りはトイレで排泄していただくケアを行っています。状況によっては居室内にポータブルトイレを設置して対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分を適切に摂取し、運動により腸を動かすことを基本としています。解消されない場合は処方された薬の服薬によって支援をします。また自然排便を促すよう牛乳やバナナの提供を行っております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴支援を行い、皮膚状態を良好に保つようにはしています。また、理美容にてカットをされたお客様はカット後、入浴をして頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペース、睡眠サイクルを把握して快適に眠っていただくように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方の変更時には特に、目的、作用について職員に伝え、変化あれば報告を頂いています。また往診時は薬剤師も同行しており、相談体制が確立されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴や散歩は毎日実施できるよう心掛けています。また、月1回行事を実施し、両ユニットの交流を図る等の取り組みもしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADL維持のためにも、戸外への外出は意識していますが、現在、新型コロナウイルスの影響により、戸外への外出が厳しい状況となっています。ホーム周辺の散歩や、ベランダ等での外気浴を中心に行っております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は事務所にて行っております。コロナ禍以前では買い物を希望された場合は、職員付き添いのもと、近隣のスーパーへ買い物に行っていました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があった場合は、ご希望通り対応しています。手紙については代筆をする場合もあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備をこころがけ、フロアの装飾には季節ごとのテーマをもって、お客様と作成した作品等を飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアに複数のソファを配置して、お客様の気分に沿って過ごしていただくようになっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご自宅で使用されていた物をそのまま使用していただくなどして、寛ぎやすい空間作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を基本として、建物の設備はお客様が使用しやすいところに位置しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
ガーデンコート川崎

作成日 令和4年2月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍が落ち着いた段階では、「地域交流室」の活用を考え、地域住民との交流の再開が期待されます。	コロナ終息後に旧小規模のスペースを活用した地域交流の場を提案していきたい。	地域包括支援センターとご相談を行い、コミュニティカフェの開催に向けて具体的な計画を進めていきたい。 また地域ボランティアの方の開催場所として旧小規模フロアの貸出を検討。	2022.4～2023.3
2	3	コロナ禍で対面での運営推進会議は開催できず、書面での意見聴取にて実施している。 コロナ禍が落ち着いた際に、活動報告や意見交換をより多く行い、サービス向上に繋げていきたい。	対面での運営推進会議の再開と、意見交換の活性化。	コロナ終息後に対面での開催を再開し、行事の活動状況のスライド写真をご覧いただき、直接の意見交換を再開。 ご家族様同士の意見交換も検討していきたい。	2022.4～2023.3 ※コロナ禍の状況を見て対面が再開可能と判断した時点。
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。